

University of Shizuoka Magazine

 静岡県立大学広報誌

はばたき

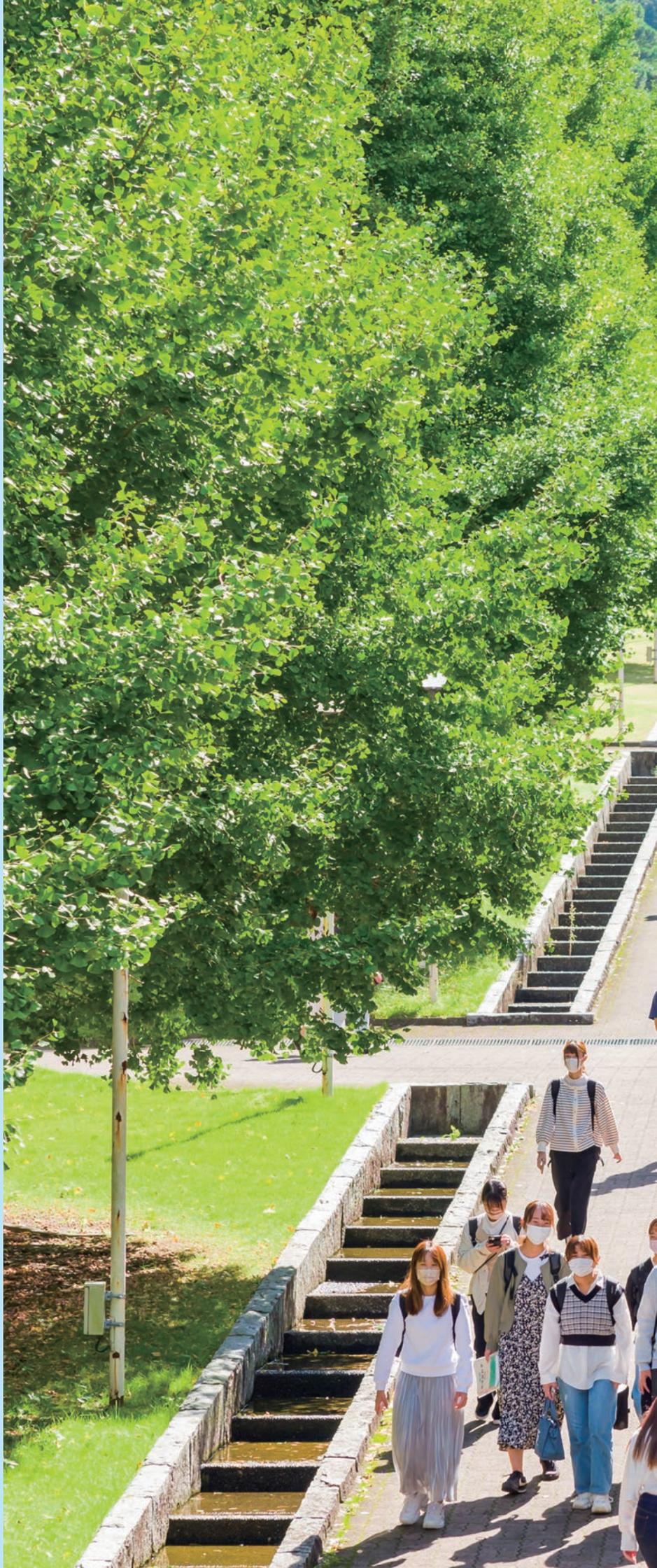
No.147

2023.August



CONTENTS

- p01 特集①
コロナ後のクラブ・サークル活動は今
- p05 特集②
OB・OGインタビュー 田中尚子さん
- p07 CAMPUS TOPICS
・薬学部教員が令和5年度科学技術分野の文部科学大臣表彰「若手科学者賞」を受賞
・寄附講座「茶健康科学講座」開設に係る伊藤園関係者が学長を表敬訪問
・第37回剣祭・第27回橘花祭 告知
- p08 Beyond the World
～静岡県立大学の国際交流～
- p09 研究室訪問
・経営情報学部 大久保あかね教授
- p11 活躍する卒業生 短期大学部 こども学科
活躍する在学生 薬学部 薬学科
- p12 産学民官連携
- p13 図書館だより
・参考図書コーナー利用のススメ
・私の一冊の本
- p14 Information
・コミュニティフェローの称号授与及び特別表彰
・講座情報





特集① コロナ後のクラブ・サークル活動は今

新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、本学においても学内への立ち入り禁止や学園祭の中止、クラブ・サークルの活動制限など、コロナ禍前には普通に行われていた様々な活動に規制がかかり、学生にとっては不本意な数年間になりました。

しかし、昨年度は3年ぶりに剣祭、橘花祭を対面で行うなど、徐々に学生の活動も活発になっていきました。23年度は新型コロナが5類感染症に引き下げられ、外出等の制限もなくなったことから、本来あるべき形での活動が再開されています。

今回は、クラブ・サークル活動について、学生たちにコロナ禍で苦労したことやコロナ禍を越え、現在の活動について聞いてみました。

特集① 本格的に再始動！

クラブ・サークル活動

今回は、クラブ・サークル活動について、学生たちにコロナ禍で苦労したことや現在の活動状況、そして今後の展望について聞きました。学生たちの言葉からは、これからクラブ・サークル活動をより活発にしていこうという熱意が伝わってきました。



ジャズダンス部

―入部したときのジャズダンス部の活動と、コロナ禍以前のように活動を行えるようになった時のことをお聞かせください。

―昨年は剣祭の实地開催もなく、学内でのライブもジャズダンス部の関係者内だけで行われ、関係者以外の方々に観てもらえる機会がありませんでした。

―昨年の夏のライブで、初めて関係者以外の方々に観てもらえるようになった時は、関係者じゃない知り合いや通りすがりの人にも観てただけで楽しいと思いました。

―また、これまでジャズダンスに打ち込んでいても、部の関係者しかその成果を観ることができなかったのが、みんなの前で披露できるようになったことで、自分が打ち込んできたものを知ってもらえることができたことも嬉しかったです。

―一部活動が平常通りできるようになってから力を注いだことはありますか。

―インスタグラムを活用するようになりました。ダンスを披露するイベントがある時は、開催予告と披露するダンスの動画を投稿しています。また、コロナ禍で減った入部者の確保にも力

を入れ、新歓にもインスタグラムを活用したりビラ配りを行うことで、部員数もコロナ禍以前と同じくらいに戻りつつあります。

―最後にこれからの意気込みをお願いします。

―昨年は剣祭が草薙キャンパスで開催され、ジャズダンス部も多くの方に観ていただけました。それでもコロナ禍以前よりは観客が少なかったそうなので、今年はより多くの人に観てもらえるように頑張りたいです。



弓道部

―入部したときの弓道部の活動と、コロナ禍以前のように活動を行えるようになった時のことをお聞かせください。

私が入部して最初に開催された大会は、私たちと対戦校、審判校の3校をオンラインでつないで、お互いの弓道場の様子をカメラで撮影して配信する形で行われました。

他のスポーツではこのような大会は開けなかったと思うので、その点ではコロナの影響は少なかったのかなと思います。

その後、2年生になって一つの会場で大会が開かれるようになった時は、朝早くの移動が結構大変だなと思いましたが、会場に到着して大会が始まると、オンラインで行っていた時とは緊張感がとても違いました。

―一部活動が平常通りできるようになってから力を注いだことはありますか。

静岡県内の大学生が参加する県下大会は、運営も学生が行っているのですが、2年生の時に3年ぶりにこの大会を復活させようとした時は特に頑張りました。

以前の運営の資料がそろっていなかったので、OB・OGの

方に色々聞いたり、他大学の弓道部員と連絡をとって運営の方法を考え、新しくマニュアルを作成したりすることで、県下大会を開催することができました。

―最後にこれからの意気込みをお願いします。

今年は東海大会で女子団体が決勝トーナメントでベスト8まで進出し、男子もリーグ戦の入れ替え戦に出場することができました。今後の弓道部の活躍にもご期待ください。



吹奏楽部

―入部したときの吹奏楽部の活動と、コロナ禍以前のように活動を行えるようになった時のことをお聞かせください。

一年生の時はコンクールは無観客だったり、演奏会も動画で公開することしかできなかったため、観客の前で演奏する機会がありませんでした。

昨年4月に観客の前で演奏できるようになった時は、高校時代を思い出して「コロナ禍以前に戻ってきたな」という感覚になりました。私たちは大学入学以前から吹奏楽をしていたため、当時の感覚が残っていた分、無観客で演奏している時は「なんのために演奏しているんだろう」とモチベーションが低下したこともありましたが、久しぶりの観客の前での演奏は、緊張感も無観客の時とは全く違って楽しかったです。

―一部活動が平常通りできるようになってから力を注いだことはありますか。

今年から合宿を再開するための取り組みを現在、行っています。コロナ禍以前の資料を見ながら計画を立てていましたが、様々な情勢の変化で、以前と同じような合宿を行えなくなっ

ていました。そこで新しく合宿中のイベントを考えるなど臨機応変な対応をすることで、新しい合宿の形を計画しています。

―最後にこれからの意気込みをお願いします。

昨年は夏に行われるコンクールで東海大会まで進出できたので、今年も東海大会に出場できるように頑張ります。また、冬の定期演奏会も昨年以上に人を集めてコロナ禍以前のように盛況になるようにしたいです。



株式会社 Salud
代表取締役

田中 尚子 さん

今回は、2022年に株式会社Saludを起業し、主に子育て中のママさん向けに講演活動などを行っている、田中尚子さんにお話を伺いました。

田中尚子さんは、今年の「Beauty Japan FUJIYAMA/NEO2023」のファイナリストにも選ばれるなど、多方面での活躍をされています。



まず、田中さんが静岡県立大学を選んだのはどうしてですか。

私は兵庫県出身なのですが、高校生の時はとにかく実家を出たかったです。一人暮らしをする条件として、両親からは国公立大学なら家を出てもいいよ、ということだったので、私は国公立大学だけを受験することにしました。だけど、前期日程の大学が落ちてしまったので、後期日程の大学を決める際に、高校の先生に進められたいくつかの大学のうち、校舎がきれいでキャンパスライフが楽しめそうな静岡県立大学を受けよう決めました。また、姉が静岡県内の大学に通っていて、静岡にゆかりがあったこともこの大学を選んだきっかけでした。

当時はどんな学生生活を過ごされていましたか

実家から出ることが目的で大学に入ったので、「自分は将来、何をしたいか」という夢や目的もなかったもので、昼間は学校にはほとんど行きませんでした。そんな学生生活を送っていたので、実は、1年留年しているんです。

ただ、大学で初めての友達に誘われたジャズダンス部の練習には参加していました。また部活の先輩から「尚子はhip-hopが向いているよ」と言われたので、hip-hopの世界にも飛び込んでみました。そこでたくさんの貴重な経験をさせていただき、様々な人たちと出会うことができました。

田中さんは静岡県内の企業に就職していますが、地元に戻ることは考えなかったのですか

hip-hopで挑戦してみたかったのですが、東京への就職を考えていたんですが、静

岡にいるダンスの仲間たちに、「静岡に残りなよ」と言われたことがきっかけで、内定していた企業を辞退して静岡県に残る選択をしました。地元に戻るという選択肢もあったんですが、中学・高校時代の友達も地元を離れていたし、ダンス仲間と出会ったことで、自分の居場所ができたということ、東京にも近いということも静岡を選んだ理由です。

実は、卒業年の2月まで就職先が決まっていなくて、キャリアアップセンターの支援を受けている時に、偶然、大同生命保険の臨時募集があり、運命だと思い、そこに就職することにしました。

会社勤めをしながらダンスのインストラクターをしていたそうですが。

就職と同時に、ダンスの恩師からダンスチームへの参加とインストラクターにならないかという誘いを受けたのがきっかけです。当時は、ダンスという一般的な外れているというような扱いでしたが、私としては、ちゃんとした企業に就職している自分もいいけど、全然違う生き方をしている人たちと触れ合うことも幅広くて良いなと思っていたので、迷いなく自分の好きなダンスを続けていくことにしました。

仕事以外に頑張れるものがあることが、仕事にも良い影響を与えると感じていたので、仕事をしながらもダンスも続けていました。

独身の時は本当に寝ていませんでした。夜中の3時頃まで練習があって、毎週末ショーに出ていたこともあり。ダンサーとして成長するには、人に見られて踊ることがとても重要なんです。インプット（経験）しなければアウトプット（教えること）もできません。

起業をしたきっかけを教えてください

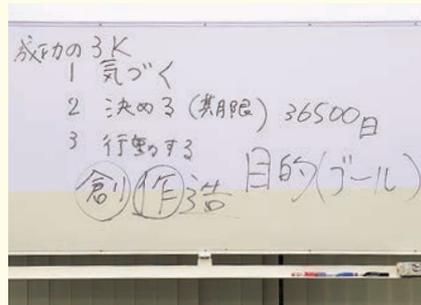
大同生命保険では営業職として働き、主に税理士の先生と一緒に中小企業に行き、会社に必要な保障を届けるという仕事や管理職としても働きました。しかし、結婚・出産を契機に、育児と仕事の両立や時間とお金、家庭環境についての悩みを抱えるようになりました。そんな時に「断捨離」に出会ったんです。

大学に入った時、友達に誘われジャズダンス部に入り、先輩に言われてhip-hopを始めて、就職時にダンス仲間のひとりで静岡に残るなど、これまでの私は、ヒトの言葉で人生を決めてきた「他人軸」で生きてきた人間でした。けど断捨離に出会ったことで自分の人生についての考え方を教えられ、「自分軸」で生きられると感じたことがきっかけで、起業を目指すようになりました。

現在はどのような活動をしていますか

ベンチャー企業の広報活動を通じ、ママの起業支援をメインに行っています。今回開催したような、ママを対象としたセミナーや起業したい方へのアドバイスなども行っています。また、月1回のペースですが、ダンス教室で子連れママやティーン向けのインストラクターをやっています。

起業をして感じていることですが、学生時代にジャズダンスと出会えたことで、人





前で自分を表現する経験をしたことや多くの仲間と出会えたこと、会社員時代に中小企業の経営者の皆さんと繋がったことが、本当に今の仕事に活かされていると思っています。

そして今年、「Beauty Japan FUJIYAMA / NEO2023」に出場してみないかと、背中を押されて、ファイナリストとして残っています。これに参加する女性たちは皆さん本当に輝いていて、私も本当に色々な刺激を受けています。

どのような夢を持っていますか

ママさんを元気にして、日本を元気にしたい。そのためには、まずは私自身が海外にもすぐに行ったりできるような人間になりたいですね。そして海外を知って、国際標準と違う日本人の特異性を体感したいと思っています。そのうえで、これからの私のビジョンを明確に発信していくことで、ママさん達のリテラシーを上げていきたいし、多くの人に影響を与えられるような人になっていきたいなと思っています。

県大生へのメッセージ

県立大学の学生は本当に学びに来ている学生が多く、学部目的も明確だし、少人数なので、学生の質が高いと思います。また、卒業生で今も色々チャレンジされている方が多いと感じているし、企業に勤めている方でもキラキラしている方が多いと思

います。

就職すると本当に時間が無くなってしまっているので、今の時間を未来のために投資してほしいですね。特に学びへの投資をどれだけするかで、得られる情報も大きく変わってきます。そういうことを学生の時期にキッチリとやってほしい。一番大事なのは自己投資だと思っているので、若い時だからこそチャレンジできることはいっぱいチャレンジして、またそこで多くの人達と出会って人間関係を沢山築いてほしいです。



今回は、学生広報大使の八峠友香さんが、経営情報学部OGの田中尚子さんにインタビューを行いました。またインタビュー前に、田中さん主催する「新時代ママの行動変革セミナー」にも参加しました。

田中尚子さんのセミナーに参加させていただきました。題材は「ママたちの働き方改革」ということで、子育てに忙しいママさんたちの新しい生き方につながるお話でした。集まったママさんたちは皆さん、表情が生き生きしており、何か新しいものを得ようとしている印象でした。特に心に残った言葉は「「変わりたい」から「変わる」へ」という言葉です。「変わりたい」

という思いを行動に移すことができるように、「何かに気づいたら期限を決めて行動に移すことが大切だ」とおっしゃっていました。これはママさんたちだけでなく、今の私にも通ずる言葉だと思いました。何か小さなことでも「変わりたい」という気づきを得ることはとても重要なことで、さらにそれを行動に移せるので「変わる」ことができるかどうかが決まります。大学生活においても、新しく変わりたい部分がたくさんあるので、一つずつ行動に移していきたいなと思いました。そして、自分が将来ママさんになった時でも、常に新しいことにチャレンジし続けていきたいです。

八峠 友香

薬学部教員が令和5年度科学技術分野の文部科学大臣表彰「若手科学者賞」を受賞

受賞テーマ

革新的な標的分子吸着モダリティ開発による疾患治療研究



小出裕之准教授

薬学部医薬生命化学分野の小出裕之准教授が、令和5年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞しました。小出准教授の研究は日本薬学会の推薦でノミネートされ、359人の中から選出されました。本賞は、萌芽的な研究、独創的な視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた40歳未満の若手研究者に贈られます。

【参考】

科学技術分野の文部科学大臣表彰について科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、我が国の科学技術の水準の向上に寄与することを目的として文部科学省が設置。「若手科学者賞」のほか下記の各賞があり、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者に対し、毎年表彰を行っている。

- ・科学技術賞（開発部門、研究部門、科学技術振興部門、技術部門、理解増進部門）
- ・若手科学者賞
- ・創意工夫功労者賞
- ・研究支援賞

寄附講座「茶健康科学講座」開設に係る伊藤園関係者が学長を表敬訪問

大学院（薬食生命科学総合学府）薬学研究院では、株式会社伊藤園の寄附を受け、2023年度から3年間、寄附講座「茶健康科学講座」を開設することになり、6月5日に株式会社伊藤園の関係者が、尾池和夫学長を表敬訪問しました。表敬訪問には株式会社伊藤園の関係者、尾池学長を始め、眞鍋敬薬学研究院長、石川智久薬学部長、中村順行茶学総合研究センター長、寄附講座運営者などが集い、和やかな雰囲気で行われました。

企業と大学が産学連携活動として寄附講座を設立する例は様々な大学で行われていますが、茶をテーマとした寄附講座（研

究室）は全国でも類を見ない、極めてユニークな試みと言えます。担当教員として山田浩薬学部特任教授と特任助教が運営にあたります。

「茶健康科学講座」では、“百薬の長”と呼ばれる茶の機能性に関するヒトにおける新たな科学的根拠（エビデンス）を臨床研究により追求し、健康長寿への貢献を目指し活動していきます。



左から
中村順行茶学総合研究センター長、
石川智久薬学部長、衣笠所長、
山田特任教授、白井副本部長、
尾池学長、眞鍋敬薬学研究院長

第37回 剣祭 10月28日(土)・10月29日(日)

今年のテーマは「豪華剣爛」です。コロナで3年ぶりの開催となった昨年度に引き続き、各種ステージ企画のほか、クラブ・サークル等による模擬店、各種イベント企画を盛り込んだ開催を予定しています。また、本学の教育・研究を体験できる模擬授業やゼミ、研究室の一般開放も予定しています。開催の詳細については剣祭実行委員会公式Twitterなどで発信予定ですのでご確認ください。

- ・e-mail: tsurugi@u-shizuoka-ken.ac.jp
- ・剣祭実行委員会公式Twitter
<https://twitter.com/tsurugiofficial>



第27回 橘花祭 11月11日(土)・12日(日)

短期大学の大学祭です。

例年、学科・専攻の専門性をいかした展示や、クラブ・サークル等による模擬店、橘花祭実行委員会主催のイベントなどを行っています。

現在、橘花祭実行委員会において、展示・模擬店の内容について検討を進めています。

詳細については、今後短期大学部ホームページに掲載しますので、ご確認ください。

- ・TEL 054-202-2603 (学生室)
- ・<https://oshika.u-shizuoka-ken.ac.jp/>

今号の「はばたき」では、本学のグローバル化3つの視点の内、「キャンパス環境」についてご紹介します。

「キャンパス環境」のグローバル化とは？

キャンパス内でのグローバル化を促進する組織・人的体制を整備するとともに、外国人留学生との交流を積極的に展開し、地域社会に貢献するグローバルな人材を育成します。その一つとして「カンパセーションパートナー制度」があります。こちらの制度は、週1回程度、日本人学生と留学生が顔を合わせ、日常会話を通じて留学生の日本語能力を高めるとともに、県大生との友情を深めることを目的としています。

国際交流センター長
澤崎 宏一 教授



👍 カンパセーションパートナーのすすめ



- ✓ 友達の輪が広がる
- ✓ 貴重な経験ができる
- ✓ 海外の生活習慣や日本の文化について意見を交換することができる
- ✓ 将来交換留学を考えている学生は事前にその国の学生と交流を深めることができる



公式HP
カンパセーション
パートナーについて



富学寮+
国際交流
Instagram

本学のグローバル化3つの視点



教育



研究



キャンパス環境

●グローバル [global]：世界的な規模であるさま。また、全体を覆うさま。包括的。「一な視点」 出典：デジタル大辞泉(小学館)

世界とつながる教育体制

海外21ヶ国の学校と交流協定を結んでいます。

交換留学や語学研修といった学生交流から教員の研究交流まで様々な交流を図っています。

協定校各国(2022年12月現在) ※協定校について詳しくは下記QRコードからホームページをご覧ください。

アメリカ合衆国、イギリス、イタリア、インドネシア、オーストラリア、カナダ、スペイン、タイ、大韓民国、中華人民共和国、ドイツ、トルコ、ニュージーランド、バングラデシュ、フィリピン、フランス、ベトナム、ベルギー、マレーシア、モルドバ、ロシア



協定校紹介

Partner school introduction



🇰🇷 韓国

延世大学校

延世大学校は1885年に創設された長い歴史と伝統を誇る韓国有数の名門大学です。ソウルから高速鉄道で一時間の江原道原州市にある未来キャンパスは、広大な敷地に充実した設備を誇り、国際色豊かで学習環境が整った本学の理想的なパートナーです。



【国際交流・留学】
詳しくはコチラ！

交換留学を経験した先輩の声

現在、私は交換留学生として韓国に留学しています。学内にある寮に韓国人のルームメイト2人と生活しています。韓国は出前文化が発展しており、ルームメイトとよく注文します。大学の近くには、飲食店も多く、サークルの仲間とよくお酒を飲みに行き、楽しく過ごしています。私が韓国への留学を決めた理由は、韓国の文化や社会を直接感じ、理解を深めたかったからです。生活の中で国民性の違いや言語の壁を感じることもありますが、毎日新しい発見があり、物事を多角的に見る力が向上していると感じます。留学を迷っている方は、ぜひ勇気を出して挑戦し、実際に体感してほしいです。

金城 せら

国際関係学部 国際言語文化学科 3年
[留学期間] 2023年2月～12月



外国人交換留学生紹介

私は、延世大学校でグローバル行政を専攻し、留学の必要性を感じたため、2年間日本語を勉強して、留学しました。留学中は、国際学生寮に住んでいました。寮には、日本人学生をはじめ、独、露、トルコ、マレーシアからの留学生と一緒に生活し、学問だけではなく、他国の文化、生活習慣、料理など、たくさん学ぶことができました。半年という短い期間でしたが、様々な思い出を作ることができ、今後の私の人生において、かけがえのないものとなりました。ぜひ、多くの方に私と同じような、心に響く、素晴らしい体験をしてほしいと思います。

キム ジミン

社会科学部 グローバル行政学科 4年生
[留学期間] 2022年10月～2023年3月



To be continued >>> 次回の協定校紹介もお楽しみに！



経営情報学部 大久保あかね 教授

一先生が取り組まれている研究について教えてください。また、現在の研究を行おうと思われたきっかけは何ですか。

現在の研究テーマは観光をキーワードとした地域活性化です。私はひょんなことから30年前に熱海に移住し、そこで観光情報誌の仕事に就きました。旅館・ホテルや観光施設などのクライアントのために集客広告を企画・制作する仕事です。その過程で観光の知識不足を痛感していたタイミングで、立教大学に観光学部が設立されたのです。大学院入試に社会人選抜が採用されていたこともあり、思い切って受験しました。

大学院では、観光地の成立要件や発達過程、サービスやホスピタリティの基本的な概念からビジネスへの展開など、観光を広い視野で学ぶ貴重な時間を過ごしました。その中で、仕事のクライアントであり日本では一般的な「旅館」が、世界水準では極めて珍しい形態の宿泊施設であることを知り、研究対象を「旅館」に決めました。具体的には旅館が観光地で果たす役割やその成立過程を歴史社会学の手法を用いて分析したのが、私の研究活動の起点です。

一先生の研究が、これからの社会に果たす役割についてお聞かせください。

旅館の研究を進める過程で、観光地の発達過程や温泉の活用、またインバウンド観光客への対応など、研究の範囲が拡大していきました。同時に理論的な研究にとどまることなく、様々な観光の実践の現場に立ち会う機会も増えました。まさに観光学への需要が拡大していることを実感しています。

観光学は極めて新しい学問分野である一方で、既存のさまざまな学問分野を横断する「学際的」な性格を持っています。観光による経済的・社会的効果を含め、刻々と変化する現場を観察・分析する観光学の視点が社会から求められています。その観光学の視点を大学で習得することは、社会で理論と実践のバランスを取りながら活躍する力を育成すると考えています。

一研究をしているなかで、学生の成長を感じるのどのような時ですか。

研究室では自治体や企業と課題に取り組む「プロジェクトメソッド」を採用していま

す。2019年からの4年間で自治体や企業と7件の協働事業に取り組みました。ゼミ生たちは自治体や企業の皆様と定期的に報告、相談を重ね、試行錯誤しながら課題解決に取り組みます。その結果、年度末の成果報告までには自然にプレゼンテーション能力やビジネスマナーを習得しています。しかしながらそのスキルよりも、協働先の皆様と信頼関係を結ぶ姿に成長を感じています。



おおくぼ
大久保あかね 教授

名古屋生まれ。奈良女子大学卒業後、株式会社リクルート入社。同社を退職後1994年に熱海に転居。当地でじゃらんの観光情報担当を務めながら、2003年に立教大学大学院観光学研究科で学位取得。2006年から富士常葉大学等を経て、2019年より本学に奉職。日本旅館の成立史から温泉文化、観光地の成立要因や発展過程などの研究を手掛ける。本学では県内5市町と観光をキーワードとした8件のプロジェクトを学生と共に手掛けてきた。

経営情報学部 4年
山内 洸太さん



一ご自身から見て感じる、大久保先生の研究室の魅力や、他の研究室にはない特徴についてお聞かせください。

ゼミでは観光分野について勉強します。長期的なプロジェクトを行うことができることが魅力です。私たち3期生は、静岡鉄道株式会社様と1年間、鉄道の乗車人数を

増やす活動をしました。メールでのやり取りや、ミーティングの進行などを通して、社会人になっても役に立つスキルを養えると思います。またゼミには、先輩後輩のペアで組む「メンター制度」があります。プロジェクトや進路について気軽に先輩に聞ける制度です。

一ご自身が行われている研究テーマについてお聞かせください。

私はバイクや車で、道の駅に訪れることが好きです。そこで道の駅をテーマとした卒業論文を書こうと考えています。また、新型コロナウイルスの規制緩和による訪日外国人観光客の増加も予想されます。そこ

で地元静岡県の「道の駅」の「外国人観光客」の受け入れ態勢の現状と課題について調査しようと考えています。

一将来の目標・希望進路についてお聞かせください。

観光学は統計学などの数字だけでなく、旅行者の心理にも依存し、難しい学問です。しかし観光学は人を笑顔にできる学問であり、そこに非常に魅力を感じました。現在、浜松市にある自動車メーカーに内定を頂いております。好きな自動車やバイクを通じて、創る側からユーザーを笑顔にできるよう、自らも楽しむ気持ちを忘れず仕事に励みたいのです！

経営情報学部 3年
箕輪 知輝さん



一ご自身から見て感じる、大久保先生の研究室の魅力や、他の研究室にはない特徴についてお聞かせください。

大久保あかねゼミの大きな魅力の1つとして、私は自主性が育成されることだと考えます。このゼミは、あかね先生が学生達に「これをやりなさい」と、タスクを任せ

ることはなく、学生達がやりたいことを定め、計画し、調査し、実施するという自由かつ自治的な活動を行っています。しかし、かといってあかね先生が学生を放置することもなく、学生のやりたいことに沿った助言や補助をしてくださるため、安心感もあります。

一ご自身が行われている研究テーマについてお聞かせください。

私は現在静岡市内のティーツーリズムの研究を行っています。静岡では飲食店などでお茶が無料で出てくることが多く、静岡市民のお茶に対する価値が下がり、お茶の消費が減少しています。この状況を打開す

べく、ターゲットを定めお茶に対する「興味」を生み出す方法を模索しています。

一将来の目標・希望進路についてお聞かせください。

私は将来、既存の観光地を壊すことなく、空間を柔軟に生かした新しい観光地を開発したいと考えています。深海都市や地下都市、誰もがSF映画などで耳にした事があるような、非現実的なものを現実に生み出し、新たな観光様式を確立したいと考えています。自然を壊さず生かし、人工物と調和できるような、そんな観光地が作りたいです。

大久保先生研究室 15名



活躍する卒業生

The graduate who plays an active part



お名前 永谷 香澄さん

卒業学部 短期大学部
こども学科
(2020年3月修了)

勤務先 静岡市立広野こども園

Q1.現在の仕事について、どのような内容かお聞かせください。また、仕事でやりがいを感じるときはどのような時か、お聞かせください。

私は現在、保育教諭として年長児の担任をしています。子ども達と一緒に遊ぶ中で、子ども達が興味や関心をもっていること、何におもしろさを感じているのかを捉えて保育をしています。子どもと同じ目線になって、子どもの思いに共感したり寄り添ったりし、安心して

園生活を送ることができるように心がけています。自分が用意した環境の中で、子ども達が楽しく遊んでいる時や「たのしかった」と言ってくれた時にやりがいを感じます。

Q2.大学生活(研究やサークル)で印象に残っていること、今の仕事に影響を与えたことを教えてください。

私は里親の卒業研究を行いました。里親について調べていく中で、様々な家庭があることを学びました。なぜ、そのような行動や姿があるのか、表面だけでなくその子なりの理由があるのかもしれないと家庭環境や背景など一歩踏み込んで考えられる力につながったと思っています。

また、サークル活動やアルバイトなどを通して、コミュニケーションの大切さを学びました。保護者や職員と日々連携を密にとりながら仕事をしています。

Q3.静岡県立大学に入学してよかったことを教えてください。

専門的な知識を少人数で学ぶことができたことです。学生の人数が少なく、手厚いご指導のもと多くのことを学びました。先生との距離も近かったので、質問や相談がしやすかったです。また、ピアノ練習ができる個室が多くあったり実際の保育室を再現した部屋があったりなど、設備が充実しており、学びを

深めることができました。先生方や友達にも恵まれ、毎日楽しく充実した日々を送りながら、学び続けることができました。

Q4.今後の目標や課題について教えてください。

子ども達の笑顔これから先ずっと守りたいと思っています。幼児期に周りの人達から十分に愛されて認められることで子ども達の将来がより豊かになります。人間形成の土台となる重要な時期に関わっていることを常に自覚し、子どもの育ちにつながる保育をしていきたいです。そして、自分自身笑顔を忘れず、楽しく保育していきたいと思っています。

Q5.在学生にひとこと、メッセージをお願いします。

保育の仕事は大変なこともあります。楽しいこともいっぱいあります。何より、子ども達の笑顔に毎日元気をもらっています。先輩の先生から“子どもが自分のことを待っていてくれる素敵な仕事”だということを教えていただきましたが、本当にその通りだと思います。

そして、学生のうちに小さな事でもいいので、自分の得意なことを一つ見つけてみてください。保育の仕事で必ず役立つはずですよ。

活躍する在学生

The current student who plays an active part



お名前 牧田 良介さん

在籍学部 薬学部
薬学科 4年
(2020年入学)

Q1.現在、ご活躍されている分野についてどのような内容かお聞かせください。また、その分野で一番魅力を感じる部分はどこですか。

陸上競技部で走高跳をやっています。昨年静岡県選手権で自己ベストの1m95cmを跳び東海選手権に出場しました。走高跳はいかに高く跳ぶかを競う競技です。1回の跳躍には助走や踏切、空中動作といった技術面だけでなく、練習やメンタル、天候、体重など多くのことが影響します。それらを研究しできることが増えていく感覚やそれらを一回の跳躍に集

約し自己ベストを更新した瞬間、前よりも高く跳べた瞬間に一番の魅力を感じます。

Q2.静岡県立大学に入学しようと思ったきっかけを教えてください。

高校の時は正直深く考えておらず、県内で薬剤師として働きたいと漠然と考えていたので実家から通えるこの大学を選びました。入学当初はコロナで陸上も学業も充実させることができず辛かったのですが、今は部活の雰囲気良く楽しく練習できていますし、配属する研究室によって薬剤師以外の道も進めるので企業も視野に入れることができ、結果的にこの大学に入学してよかったと思っています。

Q3.私生活や学業と活動はどのように両立されていますか。

3年まで両立はできていませんでした。試験前でも陸上に専念してしまい何個も再試になったことがあります。このままではだめだと思いその日の優先順位を決めるようにしました。大会が近い時は練習、試験が近い時は勉強といったように優先順位を考えて行動しています。研究室に配属されてから更に忙しくなり何を優先するかが大事になってきました。時間を無駄にしないことも心掛けています。

Q4.活動をやっていて苦労したこと、そこから学んだことなどあれば教えてください。

薬学部なのでどうしても練習時間が減ってしまうことが辛いことです。そこで短い時間で何ができるのかを考えるようになりました。コーチや先輩に意見を求め、何が自分に足りなくてどんな練習をすればいいのか、ウォーミングアップから全部見直し効率的な練習をするようにしています。練習の質や意識ががらりと変わり、時間がなくなると言い訳にせず短時間で何ができるのかを考えるようにしています。

Q5.今後の目標や課題、将来の夢について教えてください。

達成したい目標が2つあります。一つ目は今年中に2mを跳ぶことです。高校の時からずっと目標にしていた高さであと5cmのところまでできています。二つ目は全日本インカレに出場することです。これらの目標を目指すと同時に指導して下さった方や支えてくれた方々に陸上を通して感謝や恩返しをしていきたいと思っています。陸上部には他にも強い選手がいるので今後の陸上部の活躍にご期待ください!



産学民官連携

本学が取り組む地域貢献、産学民官連携活動による研究成果やイベント等の情報をご紹介します。

本学では、県内市町と結んだ「産学官連携協定」に基づき、地域が抱える課題の解決に向けた各種研究や取り組みにより、地域を“拓く”、地域を“紡ぐ”、地域を“エンパワーメントする”存在となれるよう、さまざまな事業・活動を行っています。いくつかの取り組みについてご紹介します。

<市町との連携協定>

- 静岡市と静岡県立大学との包括連携に関する協定書（H24.11.22）
- 牧之原市と静岡県立大学との包括連携に関する協定書（H26.5.19）
- 静岡県公立大学法人静岡県立大学と島田市との包括連携に関する協定書（H27.8.11）
- 焼津未来創生総合戦略の推進に向けた連携に関する協定書（H27.12.17）
- 藤枝市と静岡県立大学との包括連携に関する協定書（H30.3.27）
- 静岡大学、静岡県立大学、静岡文化芸術大学と賀茂地域1市5町の相互連携に関する協定書（H30.12.18）



「ふじのくに」
みらい共育センター長
合田 敏尚

〇地（知）の拠点事業（COC 事業）「地域を志向した研究」

- ・地域貢献、地域課題の解決等を実現する地域を志向したプロジェクト研究を支援し、「地（知）の拠点事業（COC 事業）」を推進しています。
- 【R4年度実績】「静岡県賀茂地域（下田市）への観光誘客による地域振興策の検討に関する研究」「大学生を対象とした地域防災に貢献できる人材の育成に関する研究」など

〇しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業

- ・静岡中部の5市2町（静岡市、島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町、川根本町）が提示する課題の解決に向けて、大学と市町が一体となって研究活動を行っています。
- 【R4年度実績】「静岡県立川根高等学校の魅力化向上に関する研究」「中部横断自動車道の開通による経済効果と波及効果に関する研究」など

〇藤枝市地域政策研究・創造事業

- ・藤枝市の地域課題解決に向けた研究テーマに対して、学生も参画し研究を行っています。
- 【R4年度実績】「モバイルファーマシーを活用した大学生による地域住民への健康・防災教育に関する研究」
- ・藤枝市が主催する「藤枝市大学ネットワーク会議」や「6大学連携共同講座」事業に参画しています。

〇生涯活躍のまち静岡 駿河共生地区共生事業企画運営業務

- ・静岡市地域福祉共生センター「みなくる」を拠点として、静岡市と連携し「誰もが活躍できるまちづくり」を目指し、3つの柱を掲げて地域共生の事業を推進しています。
- ◆地域健康ステーション …… 健康フェスタ 栄養講座
- ◆地域健康オープンカレッジ …… 健康講座 お茶講座 学び直し講座（投資・介護）
- ◆みなくるカフェ …… 子育て仲間のおしゃべり広場 ボランティア etc.
- 【R4年度実績】 イベント・講座・交流会等の実施回数：56回、集客者：1,488人

地域連携に興味のある学生や団体の方は、
「ふじのくに」みらい共育センターまで、お声がけください。
TEL：054-264-5441 E-mail：shizuoka-coc@u-shizuoka-ken.ac.jp



地域連携
コーディネーター
小山 弘子

本学教員との共同研究や受託研究、学術指導、奨学寄附金にご興味がありましたら、下記のお問い合わせ窓口まで、お気軽にご連絡ください。

お問い合わせ窓口

〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田52番1号
静岡県公立大学法人 静岡県立大学 地域・産学連携推進室
TEL：054-264-5124 Email：renkei@u-shizuoka-ken.ac.jp

本学教員の研究内容に関する情報は
右図の二次元バーコードからも
ご覧になれます。



図書館 だより

参考図書コーナー利用のススメ

図書館では、学生の皆さんに資料を活用していただけるよう、様々なコーナーを設けています。その中に「参考図書コーナー」というものがあります。

ここでは様々な分野の辞書・事典及び各種文献の索引、蔵書目録、さらに年鑑・白書類などの図書が並んでいます。資料の貸し出しはできませんが、レポート作成や研究の際の基本的な事柄を調べたり、統計などのデータを集めたりするときに利用できる資料が、数多く揃っています。

現在はインターネットで様々な情報を得ることができますが、過去の出来事や情報などは、いまだに書籍でしか得ら

れない場合があります。皆さんが住んでいる地域に住居表示と異なる名称で呼ばれている場所はありませんか？住所にも地図にも使われていないのに、なぜかある名称で土地が区分けされている。そういった土地に関する疑問には「参考図書コーナー」にある『角川地名辞典』や『平凡社日本歴史地名大系』を調べてみましょう。その場所がなぜそう呼ばれているかだけでなく、どういった経緯でその名称が付けられたのか、などの由来も分かります。合併などで公式には使われなくなった地名は、それを知る人がいなくなれば、ただの音としてしか残りません。しかし、ふ

と疑問に思い、辞典等で調べた時に、その言葉は意味のある知識として、受け継がれていくものだと思います。

参考図書コーナーの利用により、皆さんが新たな知識と出会い、これからの学びを豊かにしていただければ嬉しいです。



私の一冊の本

紹介者 国際関係学部 教授 津富 宏

紹介図書 それで君の声はどこにあるんだ？



著者：榎本空

出版社：岩波書店

ISBN：978-4-00023-745-1

請求記号：191.9//E63

Nobody knows the trouble I've seen.

誰も知らない、この苦しみを

この本に響き続ける、黒人霊歌の一節である。私たちは、説明のつかない社会を生きている。生活が苦しくて大学を辞めなければいけない人がいる。それを仕方ないよねと言う人もいる。こんな社会を生きることにはどんな意味があるのだろうか。この本は、こうした問いを抱えながら生きる私たちの伴侶である。

筆者は、榎本空。彼は、アメリカに渡り、黒人神学という、解放の神学を学ぶ。解放の神学とは、奴隷として収奪され、解放後もリンチを受けて木に吊るされ、政治への参加を阻まれ、今や、警察の暴力で命を奪われている人々の神学である。榎本の師、ジェームズ・コーンと言う。

Find your voice.

自分の声を見つけなさい。

そういわれて、榎本は自分のふるさと、沖縄の伊江島を思い出す。沖縄戦で住民の約半数が亡くなった地である。榎本は言う。埋葬という行為は死者に別れを告げるのではなく、生き残った者たちが、死者を記憶にとどめることであり、死者の痕跡を証することなのだ。そう、自分の声とは、生き残った者による、この世の不条理への応答である。榎本のもう一人の師、コーネル・ウェストは言う。

Never forget that justice is what love looks like in public. 公共の場において、愛は正義の形をとる。

憎しみに愛をもって応答するのだ。この不条理な社会を、私たちは愛をもって生き残る。榎本の学んだ、ユニオン神学校は、ブラック・ライブズ・マター運動を支える拠点となった。「この最も小さな者の一人にしたのは、すなわち、私にしたのである」(マタイによる福音書25章40節)。ここでいう私とはイエスキリスト。イエスもまた、飢えている者、苦しんでいる者、居場所のない者本人である。

Said I wasn't gonna tell nobody.

誰にも言わないといったけど。

コーンの遺著のタイトルであり、この本に響き渡るもう一つの黒人霊歌の一節である。誰にも言わないといったけど、言わずにはいられない。私たちは、「この世の艱難」には屈しないと。この本は、なんのために生きるのかと戸惑っているあなたのための本である。この社会を生き延びよう。自分の声を見つけよう。

コミュニティフェローの称号授与及び特別表彰

〔コミュニティフェロー制度〕

地域貢献及び人材育成を推進するため、地域等の課題解決に向けて、世代・分野・職種を越えたチーム活動を牽引するために必要な知識及び技能(=コミュニティ・ワーク力)を備えた学生に対し、「コミュニティフェロー」の称号を授与する制度。また、そのうち優れた能力を持つ学生には、特別表彰を行っている。2017年度に創設。2022年度は91名に授与し、7名を特別表彰しました。



〔特別表彰受賞者一覧〕

学部	学年	氏名	主たる活動内容
薬学部	6年	川瀬 裕斗	健康増進啓発活動の一環で行った健康イベントでのチューターとしての参加
国際関係学部	4年	出口 幸映	コロナ禍におけるK-commuでの活動及び学生広報大使リーダーとしての活動
経営情報学部	4年	井出 匠	静岡地域におけるコンサルティングに関する活動
経営情報学部	4年	田中 彩恵	菊川市ふるさと納税寄付金額向上の取組み 他
看護学部	4年	大島 響弓	富士市鷹岡地区の生活習慣病の改善に向けた健康教育の実施と地区キャラクター「たかびファミリー」の考案
看護学部	3年	松本 花奈	小鹿キャンパスでのたばものカフェの開催による食糧支援と様々な困りごとを抱えた学生に対するヒアリング、居場所支援
薬食生命科学総合学府	博士前期課程2年	豊永 咲	食育SATシステムを活用した食育イベントの運営

※学年は2022年度当時

講座情報

令和5年度公開講座(無料)	
○対面講座	
①環境生命科学で実現する持続可能な社会(食品栄養科学部)	9月9日(土)、10月7日(土)
②危機の時代における安全と共存(国際関係学部)	10月7日(土)、14日(土)
○オンライン講座(ビデオオンデマンド)	
①生涯健康Ⅱ(短期大学部)	10月4日(水)～10月18日(水)
②経営学の視点から(経営情報学部)	11月15日(水)～11月29日(水)
申込:詳しくは本学HPまたは電話でお問い合わせください。(広報・企画室公開講座担当 054-264-5106)	

社会人学習講座(有料・随時追加)	
①Connecting with English	9月2日(土)
②世界で勝つ 食のブランドづくり	9月2日(土)
③ChatGPTを活用した英語ライティング	9月9日(土)
④薬食同源からみたサプリメント利用の考え方	9月9日(土)
⑤覇権争いの果てにあるもの	9月16日(土)
⑥健康長寿をめざした食事は?	9月21日(木)
⑦シン・健康食を考える	9月30日(土)
⑧食のセルフケアを支える科学と技術	9月30日(土)
⑨統計・データ分析講座 入門編	10月14日(土)、21日(土)
11月以降も多数開講いたします。 申込:本学地域経営研究センターHPまたは電話でお問い合わせください。(054-264-5400)	

令和5年度後期社会人聴講生募集
募集要項等配布・出願受付期間:8月21日(月)～9月1日(金)※必着 お問い合わせ:広報・企画室社会人聴講生担当 054-264-5106

はばたき

次号148号は2024年2月の発行予定です。

147号 2023年8月10日発行
発行元/静岡県立大学広報委員会

- 静岡県立大学 教育研究推進部広報・企画室
- 〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田52-1
- TEL/054-264-5130 ■FAX/054-264-5099
- E-mail/koho@u-shizuoka-ken.ac.jp
- URL <https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/>



ご意見・情報をお寄せください。

記事に関するご意見・ご感想、今後取り上げてほしいテーマなど、ご要望をお待ちしています。また、本学の学生、教職員の教育・研究活動のほかご卒業生に関する情報もお寄せください。今後の企画の参考にさせていただきます。

広告

「はばたき」読者限定!

県大生応援キャンペーン!!

2023年 (お申込時にこの冊子をご持参下さい)

7/1⑤~9/30⑤までに
ご入校の方に
5,000円分の
クオ・カードを
プレゼント! ¥5,000

※普通自動車で入校の方が対象です
※限定解除の方は対象外とさせていただきます

Google口コミ 4.6の高評価!

令和5年7月1日現在

古庄は
特典がいっぱい

優先予約で短期取得可

再検定料一切不要

技能オーバー無制限保証

夜間料金無料

免許は取ったけどしばらく
乗ってないから運転が不安で...

卒業生特典
ペーパードライバー講習
1時間無料

※普通車のみ：2・3・8月を除く

お申込みはフリーダイヤル **0120-155-168** 携帯からもOK ※チラシを見たお伝えください

公認 古庄自動車学校

〒420-0812 静岡県静岡市葵区古庄3丁目11番15号
TEL.054-261-1551 FAX.054-264-0940
<http://www.flushyou.co.jp>
E-mail: main@flushyou.co.jp

県大生 向け 卒業式袴レンタル

毎年恒例の県大生向け便利な卒業式袴レンタル!

< 県大 草薙校舎内 展示会 >

■場所：草薙校舎 上食堂ラウンジ

■日時：10月19日(木) 11:00~16:30
2023年 10月20日(金) 11:00~16:30

グランシップや店舗でも展示会開催!

詳しくは上食堂2階売店にあるパンフをご覧ください!

一式当日一
草薙校舎で
着付・ヘアー・写真・返却
【無料バス】草薙校舎⇨グランシップ

※短大生は当店HPをご覧ください

■店舗 | 静岡市葵区馬場町25-2 (セノバ徒歩13分)

■営業 | 9:30~17:00 ※水曜定休・夏休み有「来店予約制」

■電話 | 0120-144-081

京都むらまつ